

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 中間評価

学校名	唐津市立久里小学校
-----	-----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・全学級で授業研究会や校内自主研修会を実施し、授業改善に努め、学力向上を図りたい。 ・児童の自己肯定感を高める取組やよりよい人間関係作りの取組の継続、地域と連携した体験活動の充実に努めていきたい。 ・運動・スポーツの楽しさを味わわせながら、運動習慣を形成していく必要がある。 ・年間を通して時間外在校等時間の上限を遵守する雰囲気醸成されつつある。今後も業務の見直しを適宜行い、働き方改革を推進していきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	「豊かな心を持ち、夢の実現に向かって、自律的に活動する久里の子 の育成 」 ～元気・笑顔・思いやりがあふれる 学校～	
----------	--	--

3 本年度の重点目標	①SWPBS「学校全体で取り組むポジティブ行動支援」の導入 ②特別支援教育の充実推進 ③“豊かな私生活”実現のための効果的な働き方 ⑤保護者・地域と連携し、信頼される学校づくりの推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善による学力向上対策。全職員による共通理解と共通実践	○個別最適な学びと協働的な学びを推進する唐津の学びスタイルチェックシートによる振り返りで、平均3点以上。		・		・		・	+G19+M19:M25+M1+M19:M24	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校は、豊かな心を身に付ける教育活動を行っている」と回答した保護者80%以上。 ○「家庭で、道徳の授業で使った資料を読んだり、お子さんと話したりしている」と回答した保護者80%以上		・		・		・	人権・同和教育担当 道徳教育推進教師 特活部	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教職員90%以上		・		・		・	生活部	
	●○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童70%以上 ●○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上		・		・		・	特活部	
	○学校全体で取り組むポジティブ行動支援等を等して居心地のいい学校・学級づくりを目指す教育活動。	○「学校・学級は居心地がいいと思う。」と回答している児童70%以上。		・		・		・	特活部	
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上 ②「健康に良い食事をしている」児童90%以上		・		・		・	保体部	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。		・		・		・	管理職	
	○業務の効率化の推進	○個人ではゴールと優先順位、組織としては行事の精選と業務の縮減に取り組み、効率化が進んだという職員を70%以上にする。				・		・	管理職	
●特別支援教育の充実	○共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの充実と環境の整備。	○各学期初めに、児童の活動が見える教室環境を整える。 ○家庭や療育施設などと連携し、2学期までに教育支援計画の願いや手立てを考え、必要な支援につなげていく。		・		・		・	特別支援コーディネーター	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○開かれた学校づくり	○地域との連携による学校教育のさらなる充実 ○保護者・地域各機関と連携した児童の見守り。	○授業参観、学校便り、学級通信、はなまる通信等により情報発信を行う。(少なくとも隔週に1回発行する。)				・		・	教頭・教務主任	
5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・									